



令和5年

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

■塗りつぶしの日 は休館です。



『世界の麺図鑑』

地球の歩き方編集部/地球の歩き方/383.8 円

中国の四川担々麺、タイのバツタイ、イタリアのジェノヴェーゼ、スイスのピッツォケリ、アメリカのチキンヌードルスープ…。世界各地で食べられている多彩な麺料理を旅の雑学とともに紹介する。データ:2022年10月現在。

水が変わるだけで全くの別物になる「麺」。切る・伸ばす・絞り出す…製造法にも注目!



『世界のヘンな研究』

五十嵐杏南/中央公論新社/002 円

世界は、想像もつかないオモシロ研究であふれている! サーフィン工学、砂漠農業、大麻の化学分析、忍者・忍術学など、世界の各地域で、その地域だからこそ行われている学問(研究)を紹介する。

『超デジタル世界』

西垣通/岩波書店/007.3 ニシ

誹謗中傷、フェイクニュース、詐欺、サイバー犯罪…。日本がデジタル後進国となった原因とは何か。日本のデジタル化は成功するのか。インターネットを健全な集合知のうまれる場とする道筋を考え、日本のとるべき道を探る。

『図書館にまいこんだこどもの大質問』

こどもの大質問編集部/青春出版社/015.2 コト

町の図書館や放課後の図書室には、子どもたちから、じつに多種多様な質問が寄せられている。「おひめさまになりたい!」「秘密基地をつくるにはどうすればいい?」など、59のレファレンス事例を紹介する。

『徳川十六将』

菊地浩之/KADOKAWA/210.4 キク

多くの優秀な部将を抱えたことで有名な徳川家臣団に、凡将や知名度のない部将までがなぜ入ったのか。酒井忠次、井伊直政ら四天王に12人を加えた「徳川十六将」の成立の謎や、虚像と実像に迫る。

『なぜ、日本には碁盤目の土地が多いのか』

金田章裕/日経BP 日本経済新聞出版/210 キン

日本では、土地区画のほとんどが正方形や長方形である。だが、世界を見渡せば、三角形やひも状など、さまざまな形の土地がある。なぜ、日本は碁盤目の区画を志向するのか。歴史地理学者がその謎に迫る。歴史地理学入門第3弾。



『中国青銅器入門』

山本堯/新潮社/222 ヤマ

今から3千年ほど前の中国で、祖先をまつる儀式のための特別な器としてつくられた青銅器。その魅力や鑑賞のポイント、見どころを豊富なビジュアルでわかりやすく提示する。2023年1~2月開催の展覧会公式ガイドブック。

『おとなは子どもにテロをどう伝えればよいのか』

ターナル・ベン・ジェルーン/柏書房/316.4 ヘン

テロリズムって何? どうして繰り返してしまっている? フランス同時多発テロをひとつの契機として、ゴンクール賞作家が娘と対話しながら、テロが発生する複雑な背景、恐怖との向き合いかた、政教分離について考える。

『父ではありませんが』

武田砂鉄/集英社/367.3 タケ

「子どものいないあなたにはわからない」と言われるけれど…。父ではないライターが、第三者だからこそ見えてくる「家族」をめぐる言説への違和感に迫る。『青春と読書』連載を加筆修正し単行本化。

『もしもワニに襲われたら』

ジョシュア・ペイビン/文響社/369.3 ヱイ

ワニに噛みつかれてしまったら。乗っている車が川に落ちたら…。71の危機についての具体的な対処法を各界の専門家がわかりやすく伝授する。もしもの時に生き残るための究極のサバイバル術が満載。

『食文化からイギリスを知るための55章』

石原孝哉/明石書店/383.8 イシ

「イギリス料理はまずい」と、イギリス人も含めて思っているのはなぜか? 歴史と伝統を重んじる一方で、新たなものをおおらかに受け入れかつ生み出すイギリス像を食文化を通して描き出す。

『天文学者は星を観ない』

シムチェギョン/亜紀書房/440.4 シム

すべては「やってみよう」から始まる! これからの月研究をリードする天文学者が、宇宙研究の現場をわかりやすく紹介するとともに、キャリアを築くことの難しさ、働く母親の本音などを綴る。

『これからのヘルスリテラシー』

中山和弘/講談社/498 カ

医学的な基礎知識がなくても、ヘルスリテラシーが身につく一冊。信頼できる情報としてのエビデンス、情報の信頼性の確認方法「か・ち・も・な・い」、患者・市民中心の意思決定支援などについて、わかりやすく詳細に解説する。

『余った毛糸で何つくる?』

ブティック社/594.3 フテ

ちょっとだけ余っている毛糸を活用できる、かぎ針編みのアイデアレシピ集。レトロなお花のコースター、簡単スクエアポーチ、シンプルなトートバッグ、細編みのミトンなど、かわいい小物を紹介します。

『ワイン家のオープン料理』

ワインあけび/リトルモア/596 ワイ

チェコスロバキア出身の薪ストーブ職人の父、山羊の毛で敷物を織る織物作家の母、料理家の娘。信州の山間の美しい村で暮らすワイン一家の物語と、とっておきのオープン料理のレシピを紹介。心も体も楽しくあたたかくなる一冊。

『鉄道員という生き方』

大日方樹/イースト・プレス/686.3 オヒ

駅係員や運転士から、工務係員、電気係員、事務職まで、鉄道業界の仕事を一瞥し、特殊な職種ならではのエピソードや、仕事の魅力、一日の過ごし方を紹介。また、鉄道員を目指す人たちに、適性や心構えなどについても解説する。

『長谷川町子私の人生』

長谷川町子/朝日新聞出版/726.1 ハセ

15歳でデビューし、国民的漫画家となった長谷川町子。人前に出ることが苦手だった町子が遺した貴重なエッセイやインタビュー、対談をまとめる。各紙誌に描いたカットも収録する。

『ウィーン・フィルの哲学』

渋谷ゆう子/NHK 出版/764.3 シフ

創設から一貫して経営母体を持たず、演奏家たち自身が運営を行うウィーン・フィルハーモニー管弦楽団。後ろ盾なしで存続してきた歴史を辿り、楽団員への取材を通して、壮麗な演奏の背後に潜む組織原理をさぐる。



『やっぱり悩ましい国語辞典』

神永暁/時事通信出版局/810.4 カ

「風邪」はなぜ「引く」と言うの? 「ヤブ医者」の「ヤブ」って何? ことばの謎の深淵を覗く辞書編集者の悩みはまだ続く。『ジャパンナレッジ』連載中のコラム「日本語、どうでしょう?」に加筆し書籍化。

『グリーン・ロード』

アン・エンライト/白水社/933 イン

世界各地に暮らす4人の子供たちのもとに母からクリスマスカードが届く。夫亡き後一人で暮らす母が家を売ることにしたという一文に驚き、これまで帰郷を避けてきた子供たちが久しぶりに勢ぞろい…。家族の絆と成長の物語。

『最期の願い』

木下康光/朝日出版/947 キノ

「パパ、百マルクって大変なお金なの?」「それをパパが稼ぐのか、ママが使うのかによるよ」ドイツ語で語られた笑話を、「ジョーク」「逸話」「なぞなぞ」といったテーマ別に紹介する。

『青いパステル画の男』

アントワヌ・ローラン/新潮社/953 ロワ

パリの弁護士ショーモンは、ある日、オークションハウスで自分そっくりの18世紀の肖像画を高値で落札する。この男は一体誰? 肖像画に描かれていた紋章を頼りに、男の正体を探る旅に出るが…。大人のためのおとぎ話。

『秘薬紫雪/風のように』

竹久夢二/作品社/F タク

陸軍中尉はなぜ、親友の幼馴染である美しき妻・雪野を殺したのか…。『秘薬紫雪』のほか、舞台女優・沢子の流転の半生と異常な愛情を描いた「風のように」を収録。挿絵も豊富に掲載する。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

図書館ホームページへ

行事予定は裏面へ

